



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月11日

上場取引所 東

上場会社名 愛眼株式会社

コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 下條 三千夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長

(氏名) 佐々 昌俊

TEL 06-6772-3383

四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	8,361	△4.1	33	△86.4	69	△77.2	△215	—
28年3月期第2四半期	8,716	3.9	249	—	305	—	202	—

(注)包括利益 29年3月期第2四半期 △279百万円 (—%) 28年3月期第2四半期 256百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
29年3月期第2四半期	△11.09	—
28年3月期第2四半期	10.44	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	16,887	14,120	83.6
28年3月期	17,334	14,438	83.3

(参考)自己資本 29年3月期第2四半期 14,120百万円 28年3月期 14,438百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
28年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	16,252	△1.9	△154	—	△77	—	△418	—	△21.59

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期2Q	21,076,154 株	28年3月期	21,076,154 株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	1,667,518 株	28年3月期	1,667,474 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期2Q	19,408,664 株	28年3月期2Q	19,409,251 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境に改善が見られるものの、内外の金融・経済情勢の不確実性の高まり、内外需の低迷や円高などを背景に、国内景気は依然として先行き不透明な状況が続いております。また、家計部門における可処分所得の伸び悩みや将来の負担増に対する防衛意識の高まりにより、個人消費は足踏み状態で推移いたしました。眼鏡小売市場は、消費者の節約志向の高まりから消費マインドの低迷が続くなか、企業間競争の激化と相まって、厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと当社グループは、当期を将来に向けた成長基盤を構築する事業年度として位置づけ、営業体制の整備や顧客層の見直しに取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、主に眼鏡小売事業における低価格帯商品の販売数の伸び悩み等により、売上高は8,361百万円（前年同四半期比4.1%減）と前年を下回る結果となり、売上総利益率は0.6%減少しました。また、販売費及び一般管理費の節減に努めましたが、各種広告媒体の利用に伴う広告宣伝費や既存店の活性化投資などが増加しました。また、保有する固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、資産の将来の回収可能性を検討した結果、減損損失232百万円を特別損失として計上いたしました。この結果、営業利益は33百万円（前年同四半期比86.4%減）、経常利益は69百万円（前年同四半期比77.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は215百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益202百万円）となりました。今後とも売上増進と経費コントロールに取り組み、収益基盤の改善を図ってまいります。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、「NEW愛眼プロジェクト」で築き上げたヤング・ニューファミリー層の営業基盤の維持を図りながら、ミドル・シニア層への接遇の強化を併行して進めております。個人のライフスタイルや価値観の変化に伴い趣味・スポーツ熱や健康意識の高まりなどの社会変化に対応し、特に、ミドル・シニア層に対しては、眼鏡専門店として自信をもって提供してきた「視力補正技術」をアピールしながら、材質・機能・デザインなどコストパフォーマンスに優れた商品の品揃えの拡充と接客サービス面の強化など様々な施策に取り組んでまいりました。

商品に関しては、「目の健康」をテーマとした快適で機能的な高付加価値商品を新たに開発し、お客様にとって安心で買い得な商品の充実を努め、幅広い年齢層の多様なニーズに対応してまいりました。

売上高に関しては、眼鏡の品揃えの充実、丁寧なアドバイスや接客の推進によって販売単価が回復しつつありますが、低価格帯商品の販売数が伸び悩んだことや、前期及び当期に実施した店舗閉鎖による売上減少の影響があり、減収となりました。品種別では、サングラスが、品揃えの充実とそれに添った販促の強化により、売上高は堅調に推移しました。また、補聴器の売上高は、前年同期の大幅な伸長の影響で、前年同期比では伸び悩みましたが、お客様の満足度向上を目指しアフターサービスのさらなる強化と認知度の向上に取り組んでまいります。

店舗に関しては、2店舗を出店、10店舗を閉店し、10店舗で改装を実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は7,944百万円（前年同四半期比4.2%減）、セグメント利益は103百万円（前年同四半期比63.4%減）となりました。

[写真館事業]

直営の写真館（名称：愛写館）3店舗を営む写真館事業は、幅広い年代のお客様の記念写真・家族写真の撮影やアルバム制作をはじめ、美容着付け、衣装レンタルなどにも対応する総合写真館をコンセプトに、子供写真はもとより成人式振袖記念写真など大人の撮影メニューも豊富に揃え、写真データの購入も可能となるなどお客様の満足度向上を図っております。当期においては、成人式振袖着物レンタルメニューを充実させるため、ローラブランド振袖に加え、藤田ニルブランド振袖などを新たに導入し集客拡大に努めました。

この結果、写真館事業における売上高は55百万円（前年同四半期比4.9%増）、セグメント損失は23百万円（前年同四半期はセグメント損失19百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は16,887百万円、負債合計は2,767百万円、純資産合計は14,120百万円となりました。前連結会計年度末に比べ負債合計が129百万円減少し、純資産合計が318百万円減少した結果、自己資本比率は83.6%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高は、1,780百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動におけるキャッシュ・フローは194百万円（前年同四半期比68.1%減）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純損失164百万円、減損損失232百万円及び減価償却費105百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動におけるキャッシュ・フローは△259百万円（前年同四半期は△50百万円）となりました。

これは主に、投資有価証券の取得による支出△202百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動におけるキャッシュ・フローは△127百万円（前年同四半期は△74百万円）となりました。

これは主に、リース債務の返済による支出△59百万円、配当金の支払額△38百万円及び長期借入金の返済による支出△30百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年5月13日に公表いたしました通期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては平成28年11月4日に公表いたしました「業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、連結業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の基準に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,749	4,536
受取手形及び売掛金	760	682
商品及び製品	2,261	2,243
原材料及び貯蔵品	24	35
その他	243	260
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	8,035	7,753
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,062	1,065
土地	1,900	1,887
リース資産（純額）	81	42
その他（純額）	84	74
有形固定資産合計	3,128	3,070
無形固定資産		
リース資産	138	63
その他	31	16
無形固定資産合計	169	79
投資その他の資産		
投資有価証券	1,607	1,741
敷金及び保証金	3,715	3,574
その他	677	667
投資その他の資産合計	6,000	5,983
固定資産合計	9,299	9,133
資産合計	17,334	16,887

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	494	496
1年内返済予定の長期借入金	60	255
未払法人税等	148	117
賞与引当金	54	62
その他	986	992
流動負債合計	1,742	1,923
固定負債		
長期借入金	225	—
繰延税金負債	52	34
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	339	333
リース債務	359	299
その他	171	169
固定負債合計	1,153	843
負債合計	2,896	2,767
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	5,356	5,101
自己株式	△1,050	△1,050
株主資本合計	16,745	16,491
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	124	78
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	39	21
その他の包括利益累計額合計	△2,307	△2,371
純資産合計	14,438	14,120
負債純資産合計	17,334	16,887

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自平成28年4月1日 至平成28年9月30日）
売上高	8,716	8,361
売上原価	2,712	2,649
売上総利益	6,004	5,711
販売費及び一般管理費	5,754	5,677
営業利益	249	33
営業外収益		
受取利息	10	9
受取配当金	7	6
受取家賃	32	34
その他	31	27
営業外収益合計	83	76
営業外費用		
支払利息	2	1
固定資産除却損	0	5
賃貸費用	19	22
その他	4	10
営業外費用合計	27	41
経常利益	305	69
特別利益		
投資有価証券売却益	4	—
特別利益合計	4	—
特別損失		
減損損失	28	232
投資有価証券評価損	—	1
特別損失合計	28	234
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	281	△164
法人税、住民税及び事業税	79	48
法人税等調整額	△0	2
法人税等合計	78	50
四半期純利益又は四半期純損失（△）	202	△215
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	202	△215

（四半期連結包括利益計算書）
（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	202	△215
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	51	△46
為替換算調整勘定	2	△17
その他の包括利益合計	54	△64
四半期包括利益	256	△279
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	256	△279
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	281	△164
減価償却費	71	105
減損損失	28	232
賞与引当金の増減額（△は減少）	120	8
売上債権の増減額（△は増加）	28	76
たな卸資産の増減額（△は増加）	198	0
仕入債務の増減額（△は減少）	5	8
その他	△47	8
小計	686	275
利息及び配当金の受取額	18	16
利息の支払額	△2	△1
法人税等の支払額	△100	△100
法人税等の還付額	6	4
営業活動によるキャッシュ・フロー	609	194
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△0
定期預金の払戻による収入	7	5
有形固定資産の取得による支出	△100	△161
投資有価証券の取得による支出	△15	△202
投資有価証券の売却による収入	16	—
その他	43	99
投資活動によるキャッシュ・フロー	△50	△259
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△30	△30
リース債務の返済による支出	△44	△59
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△0	△38
財務活動によるキャッシュ・フロー	△74	△127
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△2
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	484	△195
現金及び現金同等物の期首残高	1,902	1,975
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,387	1,780

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	眼鏡小売	写真館	計				
売上高							
外部顧客への売上高	8,291	53	8,344	371	8,716	—	8,716
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	42	42	△42	—
計	8,291	53	8,344	414	8,758	△42	8,716
セグメント利益又は損失 (△)	283	△19	263	△4	259	△9	249

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、卸売事業等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△16百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	眼鏡小売	写真館	その他	全社・消去	合計
減損損失	28	—	—	—	28

II 当第2四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	眼鏡小売	写真館	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,944	55	7,999	361	8,361	—	8,361
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	40	40	△40	—
計	7,944	55	7,999	401	8,401	△40	8,361
セグメント利益又は損失 (△)	103	△23	80	△3	77	△43	33

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、卸売事業等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△49百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

（単位：百万円）

	眼鏡小売	写真館	その他	全社・消去	合計
減損損失	121	—	—	110	232